

大阪府高齢者施設等 における好事例集

令和4年6月 大阪府高齢者施設等クラスター対応強化チーム



もくじ

1

事例1 (P3~7)

→ 日頃からの感染対策および発生後早期対応での感染対策徹底により、初発の患者および初発患者の同室者のみで収束

2

事例2 (P8~13)

→ 陽性者の発生状況に応じてゾーニングを見直し、濃厚接触者以外からの陽性者発生を防いだ事例

3

事例3 (P14~19)

→ 陽性者発生後、早期に施設内で状況の整理を行うことで、計画的に対応が行えた事例

4

最後に (P20~22)



事例 1

日頃からの感染対策および発生後早期対応での感染対策徹底により、初発の患者及び初発患者の同室者のみで収束



1 発生からOCRTが探知するまでの経緯

発生初日（0日目）

入所者1名が発熱。検査をしたところ、新型コロナ陽性が判明。
同室者1名についても検査を実施したところ、新型コロナ陽性が判明。
施設から保健所に陽性者が2名発生したことを報告。

発生1日目

保健所が施設から詳細情報を入手し、濃厚接触者の特定等行う。

発生2日目

保健所が施設内療養者の健康状態等を聞き取っている中で、ゾーニングについて感染対策助言が必要と判断し、OCRTに依頼。



施設と調整し、**依頼翌日（発生3日目）**にOCRTから薬剤師1名・看護師1名が訪問。



2

OCRT訪問時の施設の状況

- 陽性者は2名のみで、他の入所者、職員で有症状者はいなかった。
陽性者が同室であったことから、その居室のみをレッドゾーンとした。
- 食堂での食事でも距離を開けて壁に向かって食べるなど感染対策に気を付けていたことから、濃厚接触者はいなかった。
- 陽性者は2名とも軽症で施設内療養であった。協力医療機関で新型コロナ治療が困難であるとの情報から、保健所が治療可能な医療機関を調整済みであった。
- 陽性者のゴミをグリーンゾーンである個室の外に保管。
- 職員が陽性者のゴミ保管場所を通過して、グリーンゾーンとレッドゾーンを行き来していた。
- PPE脱衣場所、出入口等適切な場所に消毒液の設置がなく、
また、エレベータのボタンや手すりなど消毒が漏れているところがあった。

3

OCRT訪問時の助言

施設での対応	OCRTからの助言
陽性者は2名のみで、他の入所者、職員で有症状者はいなかった。陽性者が同室であったことから、その居室のみをレッドゾーンとした。	Good! 
食堂での食事でも距離を開けて壁に向かって食べるなど感染対策に気を付けていたことから、濃厚接触者はいなかった。	Good! 
陽性者は2名とも軽症で施設内療養であった。協力医療機関で新型コロナ治療が困難であるとの情報から、保健所が治療可能な医療機関を調整済みであった。	Good! 
陽性者のゴミをグリーンゾーンである個室の外に保管。	▶ グリーンゾーンを汚染しないよう、汚染されていない袋を用いて二重にして廃棄する方法等を助言。
職員が陽性者のゴミ保管場所を通過して、グリーンゾーンとレッドゾーンを行き来していた。	▶ 上記のとおりゴミ袋をグリーンゾーンで取り扱えるようにし、グリーンゾーンで職員が汚染されないよう助言。
PPE脱衣場所、出入口等適切な場所に消毒液の設置がなく、また、エレベータのボタンや手すりなど消毒が漏れているところがあった。	▶ 消毒液の適切な設置、職員の消毒液携帯、陽性者が触れた可能性のある個所を漏れなく消毒するよう施設内を職員と回りながら細かく助言。

4

訪問後の施設の状況

～ 施設状況のまとめ ～

- 施設では、日頃から感染対策を徹底しており、陽性者と濃厚に接触している方がいなかった。
- 発生後は早期に助言を受け、感染対策の不備を早期に改善した。
- 陽性者は、当初発生の2名のみで終了した。
- 陽性者は、症状の悪化はなく療養期間を終了した。



★ 施設情報 ★

定員60名程度の高齢者入所施設

● 陽性者の発生

→ 初発患者と、
その同室者の計2名。

● 収束までの期間

→ 約2週間

● 死亡者なし

事例2

陽性者の発生状況に応じてゾーニングを見直し、濃厚接触者以外からの陽性者発生を防げた事例



1 発生からOCRTが探知するまでの経緯

発生初日（0日目）

入所者1名が発症。検査をしたところ新型コロナ陽性が判明。

発生5日目

入所者2名が発症。検査をしたところ新型コロナ陽性が判明。
施設から保健所へ陽性者が複数出たことを報告。保健所による聞き取り等開始。

発生6日目

保健所の詳細な調査により、協力医療機関による治療が困難であるとのことから保健所からOCRTに往診依頼。また、早期に感染対策の指導が必要と判断し、あわせてOCRTに依頼。



依頼当日（発生6日目）、重点往診チームが施設へ往診。
感染対策指導は、施設と調整し、依頼2日後（発生8日目）にOCRTから薬剤師2名
看護師1名が訪問。





2

OCRT訪問時の施設の状況

- 同一フロアの入所者で陽性者が複数名発生。また、そのフロア担当職員1名で陽性が判明。
- 入所者の陽性者と、濃厚接触者については個室対応としていた。
- 職員はPPEを着用して濃厚接触者の対応を行った後、**そのPPEを着用したまま、濃厚接触者以外の入所者と接触をしていた。**
- 食器は使い捨てにしていたが、**トレーは使い捨てではなく厨房へ持ちだしているなど、ゾーニングが不十分な点があった。**
- 入院3名あり。施設内で療養を行っている入所者に対してのコロナ治療については、重点往診チームが対応済みであった。

3 OCRT訪問時の助言（訪問1回目）

施設での対応	OCRTからの助言
<p>同一フロアの入所者で陽性者が複数名発生。 また、そのフロア担当職員1名で陽性が判明。</p>	<p>▶ レッドゾーンとグリーンゾーンを区別しやすい状況！</p>
<p>入所者の陽性者と、濃厚接触者については個室対応と していた。</p>	<p>Good! </p>
<p>職員はPPEを着用して濃厚接触者の対応を行った後、 そのPPEを着用したまま、濃厚接触者以外の入所者と 接触をしていた。</p>	<p>▶ 濃厚接触者がいるゾーンはレッドゾーンとして取り扱い、 PPEを着用したままレッドゾーンから出ないように助言す るとともに、<u>現在濃厚接触者である方が陽性となった場合、 汚染されたPPEで接触していた入所者も濃厚接触者となる ことを助言。</u></p>
<p>食器は使い捨てにしていたが、トレーは使い捨てではなく 厨房へ持ちだしているなど、ゾーニングが不十分な点が あった。</p>	<p>▶ トレーをレッドゾーン専用にするなど、消毒等なしに、 レッドゾーンから物品を持ちださないよう助言。</p>
<p>入院3名あり。<u>施設内療養を行っている入所者に対しての コロナ治療については、重点往診チームが対応済みであった。</u></p>	<p>Good! </p>

3

OCRT訪問時の助言（訪問2回目）

施設での対応

※1回目の訪問の翌日に施設より連絡あり
 「当初、濃厚接触者としていた方が1名陽性となった。その他、同じフロアの方で複数名陽性が判明した。」

新たな陽性者の発生状況を確認したところ、同一フロアのみでの発生であったが、新たな陽性者の接触状況を確認したところ、同一フロアの全ての入所者と接触があった。

新たに発生した陽性者に対しても、往診支援が得られた。

OCRTからの助言

陽性者の発生しているフロアの入所者は、全て陽性者か濃厚接触者となったため、フロア全体をレッドゾーンとした。
 また、陽性者が発生しているフロア以外の場所をグリーンゾーンとして利用できるように、職員のフロア移動の動線も考えながらゾーニングをし直した。

Good! 

4 訪問後の施設の状況

～ 施設状況のまとめ ～

- 新たに陽性者が出た際は、初期の想定以上に感染拡大する可能性があることを認識し、新たな陽性者が出た際にすぐにOCRTに相談。
- 速やかにゾーニング等の見直しを行い、その後は、濃厚接触者として対応していた方の範囲での発生にとどまり、収束。
- 施設内療養の方には往診の支援が入り、その後入院者は出なかった。



★ 施設情報 ★

定員50名程度の高齢者入所施設

● 陽性者の発生

→ 濃厚接触者以外からは
新規陽性者が出なかった。

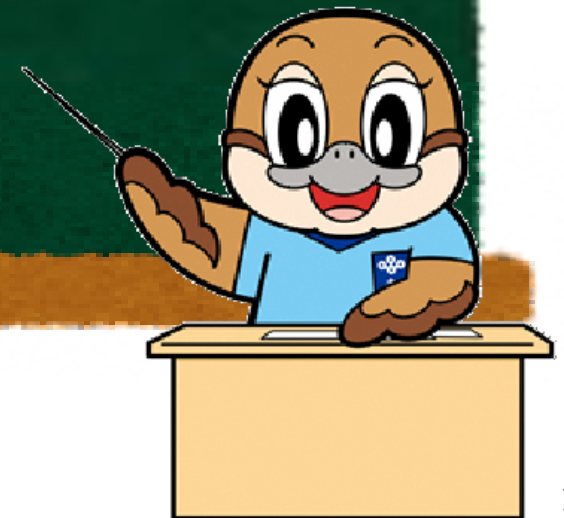
● 収束までの期間

→ 約4週間

● 死亡者なし

事例 3

陽性者発生後、早期に施設内で状況整理を行うことで、計画的に対応が行えた事例



1 発生からOCRTが探知するまでの経緯

発生初日（0日目）

入所者で複数名が発熱し、検査をしたところ新型コロナ陽性が判明。
施設から保健所へ陽性者が複数名発生したことを報告。
保健所は施設から状況を聞き取り、早期に感染対策の指導が必要と判断し、
OCRTに依頼。



施設と調整し、依頼2日後（発生2日後）にOCRTから医師1名
薬剤師1名・看護師1名が訪問。







2

OCRT訪問時の施設の状況

- 陽性者、濃厚接触者に対しては個室に隔離していた。
- 初発の陽性者が判明してから食堂の利用は中止し、食事も自室で取るなど、陽性者や濃厚接触者が他の入所者と接触しないようにしていた。
- ゾーニングは行っていたが、職員はPPEを着用して陽性者や濃厚接触者の対応を行った後、そのPPEを着用したままグリーンゾーンへ移動するなど、ゾーニングが不十分な状態であった。
- 陽性者のみ使い捨て食器で対応しており、濃厚接触者は通常の食器を利用していた。
- 職員は陽性者が出たことで漠然とした不安を感じており、また、職員でも陽性者が出たために人員が不足し、心身ともに余裕がないとのことであった。
- 人手不足により施設内での検体採取が遅れており、必要な検査が終わっていなかった。
- 入院2名あり。施設内療養を行っている入所者に対してのコロナ治療については、まだ予定されていなかった

3

OCRT訪問時の助言

施設での対応	OCRTからの助言
陽性者、濃厚接触者に対しては個室に隔離していた。	Good! 
初発の陽性者が判明してから、食堂の利用は中止し、食事も自室で取るなど、陽性者や濃厚接触者が他の入所者と接触しないようにしていた。	Good! 
ゾーニングは行っていたが、職員はPPEを着用して陽性者や濃厚接触者の対応を行った後、そのPPEを着用したままグリーンゾーンである場所へ移動し、グリーンゾーンで脱衣し、再利用のためまとめて保管するなど、ゾーニングが不十分な状態になっていた	 <p>汚染されたPPEで移動することにより、汚染されたゾーンが広まり、また、グリーンゾーンの範囲が狭まることで職員の負担増につながっている！<u>PPEは使い捨てにし、レッドゾーンでの作業をレッドゾーン内で完了できるようにゾーニングの仕方を助言。ゾーニングの改変によって必要となる物品の数を整理。不足した場合の支援について助言</u></p>
陽性者のみ使い捨て食器で対応しており、濃厚接触者は通常の食器を利用していた	 <p>食器の洗浄などの業務を軽減するため、全ての入所者に対して、当面の間使い捨ての食器の活用を助言。</p>

3

OCRT訪問時の助言

施設での対応	OCRTからの助言
<p>職員は陽性者が出たことで漠然とした不安を感じており、また、職員でも陽性者が出たために人員が不足し、心身ともに余裕がないとのこと。</p>	<p>PPEの正しい着脱、手洗い、消毒など<u>感染対策を適切にすれば不必要に怖がることはないこと</u>、<u>帰れない職員に空室を提供するなどが職員のケアにつながることを助言</u>。<u>職員の負担の少ないゾーニングを助言するとともに</u>、職員不足には<u>法人内で応援体制が必要であることも伝える</u>。</p>
<p>人手不足により施設内での検体採取が遅れており、必要な検査が終わっていなかった。</p>	<p>早期に入所者全員のスクリーニング検査を行って、陰性・陽性を確認することで、同じ無症状者でも今後発症する可能性があるかなど区別して管理することができ、職員の負担軽減につながることを助言（OCRT職員（医師）が施設管理者の指示のもと一部手伝う。）</p>
<p>施設内療養を行っている入所者に対してのコロナ治療については、まだ予定されていなかった。</p>	<p><u>速やかに協力医療機関への相談すること</u>、協力医療機関で対応困難な場合は<u>保健所へ相談するよう助言</u>。</p>

4

訪問後の施設の状況

～ 施設状況のまとめ ～

- 施設で物品を購入し、また、不足分を行政に支援してもらうことで物品が充足し、レッドゾーンでの作業はレッドゾーンで完結させ、**グリーンゾーンに汚染された物品等を持ちだすことはなくなっていた。**
- 使いまわしていた物品を使い捨てにし、またスクリーニング検査の結果をもって、**施設内でメリハリをつけて入所者の対応を行うことで、職員の作業量が減り負担軽減**になっていた。
- 施設内療養者については、協力医療機関での治療が困難であったため、**保健所に相談し往診支援**を受けていた。訪問当初に聞きとった入院者以降、入院者は出なかった。

★ 施設情報 ★

定員60名程度の高齢者入所施設

● 陽性者の発生

→ 初発患者の濃厚接触者以外からも発生が続いたが、初発患者発生から1週間以内で新規陽性者の発生が止まった。

● 収束までの期間

→ 約3週間

● 死亡者なし

最後に…

- 日頃からしっかり感染対策を行っておきましょう！
- マニュアルや研修で知識を得、日頃から陽性者が発生したときの対応を施設職員全員でシミュレーションしておきましょう！
- 施設内で1人でも陽性者が出たら、速やかに施設所管の市町村担当福祉部局（大阪府所管の場合は大阪府の担当福祉部局）や保健所へ連絡しましょう！
- 陽性者のコロナ治療について協力医療機関に相談しましょう！



施設で陽性者が出ると、誰もが「これからどうなるんだろう？」と不安になります。

新型コロナは施設で広まりやすい感染症で、しばらく対応が続くかもしれませんが、

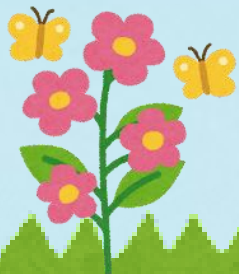
落ち着いて対応することで、感染拡大を防げます。

また、早期に治療を開始することで重症者を減らすことができます。

施設での感染症を早期に収めるには、日頃からの感染対策をはじめ、

職員の皆様のご協力あってのことです。

新型コロナの難局を乗り越えるため、一緒に頑張りましょう！



お問合せ先

保健所に電話が繋がらない時は迷わずお電話を！

大阪府高齢者施設等クラスター対応強化チーム（OCRT）
高齢者施設等（入所）専用ダイヤル

 **06-6635-2046**（土日、祝日含む24時間対応）

※ 施設の医療機関で新型コロナウイルスの治療が困難な場合は
保健所の往診専用ダイヤルにご相談ください。

